

ともに 前に 1 歩

湯沢市

地域学校協働活動

ニュース

これまで、地域全体での子育てや学校づくりの視点から地域と学校の関わりを考えてきました。地域の方からは「我々が学校のためにできることは？」とか「学校が必要としていることは何か教えてくれたら？」などの声を聞くことが多かったように思います。

今回は、**学校を核とした地域づくりの視点**から考えてみましょう。

学校を核とした地域づくりとは

地域住民が**学校を核とした連携・協働の取組**に参加や参画すると

高齢者も含めた住民一人一人の活躍の場が増える。

まちに活力を生み出す。

子どもたちの豊かな成長につながる。

人づくりと地域づくりの好循環を生み出す

「自分たちの地域社会」というベースができ、活性化につながる

子どもたちに地域への愛着や誇りを育む(ふるさと教育へ)

地域の将来を担う人材育成になる。また、地域人としての基礎を養う

地域が、一方的に学校や子どもたちを応援・支援するという関係ではなく、子どもの育ちを軸として、学校と地域がパートナーとして互いに膝を突き合わせて、意見を出し合い、学び合う中で、地域も成熟化していく視点が重要である。

H28 文科省 中央教育審議会資料から



そこで、学校や地域の皆さんへ問いかけです

子どもたちが、主体的に（学校側に**依頼の形**をとらなくても）

地域に出向き、地域人として活躍できる手立てはないだろうか？

地域で学ぶ機会をもつことはできないだろうか？

地域課題(高齢化社会や地域コミュニティの衰退など)の解決に向けて

学校や子どもたちが貢献できる機会や方法はあるのだろうか？



**地域の人材を生かした
学校への支援活動****OK** (かなり浸透してきた)

- 学習支援や学校行事の補助（これまで積み重ねてきた関係の継続）
- 企業や各種団体とタイアップ活動（個人レベルから組織レベルへの移行）
- 長期休業中や放課後の学習支援（地域未来塾）
- 校内外の教育環境の整備（玄関、図書室、校内掲示やグラウンド整備など）
- 小中連携の活動（一体型校舎を生かした連携、合同避難訓練、地域資源活用）
- 登下校中の安全確保や校外学習の見守り活動

**地域資源を生かした
ふるさと学習****OK** (かなり浸透してきた)

- 地域の視点で見た職場体験の場の選定
- 生き方学習やキャリア教育の講師
- ゲストティーチャー（地域の宝の継承、番楽など伝統芸能）
- 行事や祭りへの参加（小・中学生の立場での伝統行事の見方）
- 先人の生き方を伝える（地域に息づく思いの伝承）

**これからの
新たな視点****地域づくりの中で未来の地域人材の育成**

- ふるさと教育としての体験活動（農業、地場産業）
- イベントやボランティア活動への参加
（地域貢献への参加、小・中学校のコラボ、地域祭りへの参加）
- 地域の特色を生かした物品の企画の提案、製造、販売（〇〇会社）

学校の力を生かした地域づくり

- 学校の存在を地域へアピールする広報活動（学校を利用したつながり）
- 地域住民を巻き込んだPTA活動や親子体験（クリーンアップ）
- 地域資源（モノ・ヒト・コト）を活用した学習（起業体験、地域おこし）
- 地域課題を解決する学習（人口減少、高齢化）や「ふるさと」の調べ学習、行政関係者や住民との意見交換（現実把握）
- 地域合同防災体験（防災教室、避難所開設、緊急時の行動、非常食体験）
- 地域振興に向けた多様な活動（地域祭でのブラバンなど各種部活の参加）

未来の地域人となる子どもを育てることは、長期的な取組でもあり、地域レベルにおいて積極的な事例は多くありません。これに関しては、学校側が新たな取組を増やすのではなく、地域側がアイデアを出して、学校とタッグを組んで「地域人づくり」に取り組むことが望まれます。